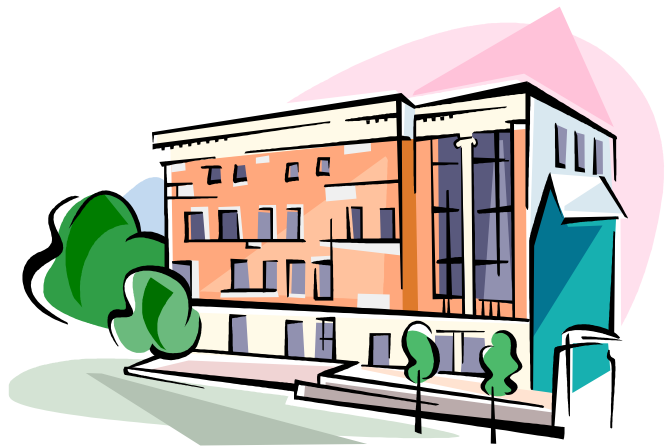


2024年度 工学部新入生用

共通科目・工学コア教育科目

履修に関する連絡事項

(高度工学教育課程・創造工学教育課程)



生命・応用化学科 (L C)	<i>Life Science and Applied Chemistry</i>
物理工学科 (P E)	<i>Physical Science and Engineering</i>
電気・機械工学科 (E M)	<i>Electrical and Mechanical Engineering</i>
情報工学科 (C S)	<i>Computer Science</i>
社会工学科 (A C)	<i>Architecture, Civil Engineering and Industrial Management Engineering</i>
創造工学教育課程 (C R)	<i>Creative Engineering Program</i>

目 次

ページ

・ 注意事項	1
・ 「共通科目・工学コア教育科目について」 共通教育代表	2
・ 「大学生になった皆さんへ」 工学教育総合センター長	3
・ 教育課程	4
・ 共通教育（共通科目・工学コア教育科目）履修に関する連絡事項	
キャリア形成（フレッシュマンセミナー）	8
人間社会（技術と人間・心理, 技術と歴史・哲学, 技術と社会・国際, 技術と芸術・文化）	1 1
数学	1 3
物理学	1 5
化学	1 9
グローバルコミュニケーション	2 1
健康運動科学	2 3
数理情報	2 6
・ 学内配置図	2 7
・ 講義室配置図	2 8
・ 教育用計算機システム(Edsys)設置場所	2 9
・ 大学からのお知らせ・案内の見方	3 1

注 意 事 項

この冊子は、共通教育（共通科目及び工学コア教育科目の一部科目）に関して、シラバスに掲載されていない履修に関する重要な事柄をまとめたものです。

授業開始に向けて、この冊子をよく読み、また、特に下記の点に注意してください。

記

- 1 授業開始の曜日、時限、講義室を時間割で確認し、初回授業は特に注意して、必ず授業を受けること（時間割番号と教室番号が数字4桁で似ているので、気を付けること）。
- 2 シラバスには、それぞれの授業の、「授業の目的・達成目標」「履修にあたっての注意事項及び教室外における準備学習などの指示」など、重要な内容が記載してあるので、よく読んでおくこと。
- 3 授業に関する通知等は、学生ポータルの学生掲示板等で行うので、必ず確認すること。
- 4 この冊子は、再履修のことなどの記載もあり、2年次以降も必要となることがあるので、「学生生活案内」同様、なくさないようにすること。

※ 資料中の以下の略語は、学科・課程を表しています。

LC：生命・応用化学科， PE：物理工学科， EM：電気・機械工学科
CS：情報工学科， AC：社会工学科， CR：創造工学教育課程

共通科目・工学コア教育科目について（高度・創造工学教育課程新入生用）



共通教育代表 田中 優子

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活に期待に胸を膨らませているひと、具体的目標のあるひと、やりたいことをこれから見つけていこうと思っているひと、さまざまな想いを持って入学されたことと思います。多様な学生ひとりひとりが、それぞれ有意義な学生生活を送られることを願っています。

本学の教育科目には、学生のみなさんが自身の専門的興味や関心を深めていくための「専門教育科目」に加えて、専門教育科目を学ぶための基礎やそれらを俯瞰的・多面的にとらえるための視点や人間性を涵養するための「共通科目」「工学コア教育科目」があります。共通科目は、さらに「人間社会」、「自然科学基礎」「グローバルコミュニケーション」、「健康運動科学」の4つの区分、また、工学コア教育科目は「キャリア形成」、「経営リテラシー」、「数理情報」、「工学デザイン科目」の4区分にわけられます。これらの科目の多くは1、2年次に開講されますが、全体で卒業認定単位数の約4割を占めるだけでなく、各学科の研究室配属にも大きく関わってきます。

専門教育科目は各学科によって異なるのに対し、共通科目および工学コア教育科目は全学科の学生が共通して履修するものです。したがって、本冊子『共通科目・工学コア教育科目履修に関する連絡事項』は、みなさん全員の大学生活を円滑にスタートさせる手引きのひとつと言えるでしょう。本冊子には共通科目および工学コア教育科目に関する重要事項が記載されていますので、内容をよく読み、履修計画に役立ててください。まずは履修方法を確認し、次に共通科目の「授業科目名」のリストを参考にシラバスをみてみましょう。科目名だけではわからない、授業の具体的内容が見えてきます。また、共通科目には自分で選択して受講することが可能な科目もあります。みなさんの興味や関心にそった選択をするためにもシラバスを参考にしてください。

最後に、入学直後のこの時期は、さまざまなガイダンスがあり、覚えることや取り組まなければならないことが多くて大変だと思うことも多いかもしれません。慣れ親しんだ環境から新しい環境に適応しようとする際に、膨大な情報にさらされて大変に思うのはいたって自然な人間の反応です。心理学には「スモールステップの原理」とよばれる、大きな目標や課題は細分化して少しずつ取り組むとよいという考え方があります。複雑に見える問題は達成できそうな小さな課題に分けて、一度にひとつずつ取り組んでいく。これを積み重ねていきましょう。4年後に大きく成長している自分に出会えると思います。

大学生になった皆さんへ



工学教育総合センター長 上原 直人

ご入学おめでとうございます。皆さんをお迎えすることができましたことを、本学の教職員一同たいへん嬉しく思っております。4月からは大学生として新たな生活が始まりますが、新たな目標に向かって、充実した学生生活を送られることを願っています。

これから皆さんは、各学科・課程で定められた教育課程に従って授業科目を履修し、必要な単位を修得しながら卒業を目指すことになります。本学の教育課程は、「専門教育科目」、「共通科目」、「工学コア教育科目」に分かれています。「専門教育科目」は、各学科・課程で必要となる専門分野に関する授業であるのに対して、「共通科目」と「工学コア教育科目」は、専門科目を学ぶ上で必要となる工学の幅広い基礎知識、技術者・社会人として身につけておきたい幅広い教養と思考力の習得を目指す授業です。本冊子『共通科目・工学コア教育科目履修に関する連絡事項』には、各科目区分の履修の注意点、受講の心構えが記載されていますので、共通科目・工学コア教育科目の履修に役立ててください。

高等学校と大学の大きな違いは、大学では自分で選択できる科目が多く設けられている点です。何をどう学んでいくのか考えながら自身の学習過程に主体的に関わることで、大学での学びはより充実したものとなっていきます。『学生生活案内』では、本学の教育理念、各学科・課程の教育目標とともに、授業科目や単位数等も明記されていますので、確認しておいて下さい。また、本学 HP 上で公開されている各授業科目の「シラバス（講義概要）」には、対面／オンデマンド等の授業実施方法、授業の目的・達成目標、授業計画、成績評価の方法と基準、履修条件やオフィスアワー（教員による質問・相談対応）等が記載されていますので、履修計画を立てる際の参考にして下さい。

本学では、皆さんの入学から修学、卒業に至るまで、総合的・継続的な支援を行っています。教職員や先輩学生も関わりながら、様々な相談の機会や授業以外での学びの場も設けていますので、積極的に活用して下さい。皆さんが有意義な大学生活を送り、大きく成長されることを期待しています。

共通科目 高度工学教育課程及び創造工学教育課程

区分	授業科目名	授業形態	単位数 (○印は必修)	毎週授業時間数								ナンバー	備考	
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
人間社会	技術と人間・心理	心理学	講義	2								01111		
		環境学	講義	2								01112		
		対人コミュニケーション論	講義	2								01113		
		情報コミュニケーション論	講義	2	4	2	2	2				01114		
		人間行動学	講義	2								01115		
		言語学	講義	2								01116		
		ジェンダー論	講義	2								01211		
		人間・心理特殊講義	講義	2				2				01212		
	技術と歴史・哲学	アジア・太平洋史	講義	2								02111		
		科学技術史	講義	2								02112		
		科学思想史	講義	2								02113		
		科学と哲学	講義	2	4	2	2	2				02114		
		共生社会論	講義	2								02115		
		近現代史	講義	2								02116		
		公共の哲学	講義	2								02117		
		歴史・哲学特殊講義	講義	2				2				02211		
	技術と社会・国際	経済学	講義	2								03111		
		現代社会論	講義	2								03112		
		現代政治論	講義	2								03113		
		公共政策論	講義	2								03114		
		生涯学習論	講義	2	4	2	2	2				03115		
		地域研究Ⅰ	講義	2								03116		
		地域研究Ⅱ	講義	2								03117		
		日本国憲法	講義	2								03118		
	技術と芸術・文化	社会・国際特殊講義	講義	2				2				03211		
		美学	講義	2								04111		
		美術史	講義	2								04112		
		音楽論	講義	2								04113		
		文学	講義	2	4	2	2	2				04114		
		異文化理解	講義	2								04115		
		日本文化論	講義	2								04116		
		宗教文化論	講義	2								04117		
	共通科目	自然科学基礎	感性と社会	講義	2								04118	
			芸術・文化特殊講義	講義	2				2				04211	
			小計		68	4	2	2	2					
線形代数Ⅰ			講義	②	2							0M111	CSを除く	
線形代数Ⅰ及び演習			講義	③	3							0M112	CS	
線形代数Ⅱ			講義	②		2						0M113		
微分積分Ⅰ及び演習			講義	③	3							0M114		
微分積分Ⅱ及び演習			講義	③ 3		3						0M115	PE,EM LC,CS,AC,CR	
力学			講義	②	2							0P111		
物理学演習Ⅰ			演習	① 1	2							0P121	EM PE,AC,CR	
自然科学基礎	自然科学基礎	電磁気学	講義	② 2		2						0P112	PE,EM LC,CS,AC,CR	
		物理学演習Ⅱ	演習	① 1		2						0P122	EM PE,CR	
		物理学実験	実験	② 2			4					0P221	LC,PE,CRa	
				2		4						0P123	CRb AC	
		基礎化学	講義	② 2	2							0C111	LC,PE EM,CR	
				2		2							CS,AC	
		化学結合論	講義	② 2	2							0C112	LC,CR PE,EM,CS,AC	
				2										
		化学実験	実験	② 2				4				0C221	LC,CRa PE	
				2										
自然科学基礎	自然科学基礎	地球科学	講義	2			2					0G211		
		地球科学実験	実験	1				2				0G221	AC	
		生体機能科学	講義	2				2				0B211		
		理系基礎演習	演習	②	4							0S121	CS	

区分		授業科目名	授業 形態	単位数 (○印は必修)	毎週授業時間数								ナンバー	備考
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
	小 計	単位	⑦9	①	②5	②2	②2	0						生命・応用化学科(LC)
		時間	30	11	7	6	6	0						
		単位	⑧10	⑨3	⑦1	②2	4	0						理工工学科(PE)
		時間	34	13	9	6	6	0						
		単位	⑥8	⑧4	⑧	2	2	0						電気・機械工学科(EM)
		時間	26	13	9	2	2							
		単位	⑫13	⑩2	②7	2	2							情報工学科(CS)
		時間	27	14	9	2	2							
		単位	⑨17	⑦3	②9	2	3							社会工学科(AC)
		時間	30	11	13	2	4							
		単位	⑮13	⑨3	②6	②2	②2							創造工学教育課程 材料・エネルギーコース(CRa)
		時間	34	13	9	6	6							
		単位	⑬13	⑨3	④6	2	2							創造工学教育課程 情報・社会コース(CRb)
		時間	30	13	13	2	2							
	グローバル コミュニケーション センター	Academic English I	講義	②	2								0E111	
		Academic English II	講義	②		2							0E112	
		English Seminar I	演習	①	2								0E121	
		English Seminar II	演習	①		2							0E122	
		Academic EnglishⅢ	講義	②			2						0E211	
		Academic EnglishⅣ	講義	2				2					0E212	
		Global English I	演習	1					2				0E321	
		Global English II	演習	1						2			0E322	
		Global EnglishⅢ	演習	1							2		0E421	
		Global EnglishⅣ	演習	1								2	0E422	
	小 計			⑧6	4	4	2	2	2	2	2	2		
	健康 科学運動	体育実技Ⅰ	実技	①	2								0H131	
		体育実技Ⅱ	実技	1		2							0H132	
		健康運動科学演習A	演習	1	2								0H133	集中
		健康運動科学演習B	演習	1		2							0H134	集中
		小 計			⑬3	4	4							
合計 (単位)	生命・応用化学科(LC)			②28	⑮5	⑤9	④4	②6	1	1	1	1		
	理工工学科(PE)			⑦25	⑬8	⑩5	④4	4	1	1	1	1		
	電気・機械工学科(EM)			⑤23	⑫9	⑪4	②2	4	1	1	1	1		
	情報工学科(CS)			②28	⑭7	⑤11	②2	4	1	1	1	1		
	社会工学科(AC)			⑮31	⑪8	⑤13	②2	4	1	1	1	1		
	創造工学教育課程 材料・エネルギーコース(CRa)			④32	⑬8	⑤10	④4	②6	1	1	1	1		
	創造工学教育課程 情報・社会コース(CRb)			②28	⑬8	⑦10	②2	4	1	1	1	1		

(注)備考欄の略号は、次のとおり学科・課程を示す。

LC:生命・応用化学科, PE:理工工学科, EM:電気・機械工学科, CS:情報工学科, AC:社会工学科, CR:創造工学教育課程,

CRa:創造工学教育課程材料・エネルギーコース, CRb:創造工学教育課程情報・社会コース

工学コア教育科目 高度工学教育課程及び創造工学教育課程

区分	授業科目名	授業 形態	単位数 (○印は必修)		毎週授業時間数								ナンバー	備考	
					1年次		2年次		3年次		4年次				
			高度	創造	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
キャリア形成	フレッシュマンセミナー	演習	①		2								0T121		
	産業論	演習	①					2					0T221		
	キャリア・コミュニケーション論	講義	2					2	2				0T211		
	キャリアデザイン	講義	2						2				0T311		
	労働者管理基礎論	講義	2						2				0T312		
	ダイバーシティ概論	講義	2						2				0T313		
	組織とマネジメント	講義	2						2				0T314		
	小計		②10	2				4	2						
	経営リテラシー	金融学	講義	2						2				0U311	寄附講義
法工学		講義	2						2	2			0U312		
知的財産権		講義	2						2	2			0U313		
マーケティング		講義	2						2	2			0U314		
経営戦略		講義	2						2	2			0U315		
政策科学		講義	2						2	2			0U316		
会計学		講義	2						2	2			0U317		
工学倫理		講義	2						2	2			0A311	ACcを除く	
管理工学		講義	2						2	2			0U318		
リーダーシップ		講義	2						2				0U319	寄附講義	
持続環境学		講義	2						2				0U31A		
小計			22						2	2					
数理情報	数理情報概論	講義	②		2								0V111	CS,AC,CR	
						2						0V211	LC,PE,EM		
	小計		②		2	2									
工学コア教育科目	工学分野方法論	生命・物質化学方法論	講義	1			1						0W211	LCを除く。集中	
		ソフトマテリアル方法論	講義	1			1						0W212	LCを除く。集中	
		環境セラミックス方法論	講義	1			1						0W213	LCを除く。集中	
		機能材料方法論	講義	1			1						0W214	PEを除く。集中	
		応用物理方法論	講義	1			1						0W215	PEを除く。集中	
		電気電子方法論	講義	1			1						0W216	EMを除く。集中	
		機械工学方法論	講義	1			1						0W217	EMを除く。集中	
		ネットワーク方法論	講義	1			1						0W218	CSを除く。集中	
		知能情報方法論	講義	1			1						0W219	CSを除く。集中	
		メディア情報方法論	講義	1			1						0W21A	CSを除く。集中	
		建築・デザイン方法論	講義	1			1						0W21B	ACを除く。集中	
		環境都市方法論	講義	1			1						0W21C	ACを除く。集中	
		経営システム方法論	講義	1			1						0W21D	ACを除く。集中	
	工学デザイン	創造工学概論	演習		①	2								0X121	
		クリティカルシンキング	演習		①	2								0X122	
		創造方法基礎	講義		②		2							0X111	
		ものづくりとデザイン	講義	2			2							0X211	
		実践問題解決	演習	1			2							0X221	
		デザイン理論	講義		②			2						0X212	
		価値創造論	講義	2					2					0X311	
		イノベーション論	講義		②				2					0X312	
		PBL演習	演習		②					4				0X321	
		研究室ローテーションⅠ	演習		①		2							0Y121	
	創造演習	研究室ローテーションⅡ	演習		①		2							0Y221	
		研究室ローテーションⅢ	演習		①			2						0Y222	
		研究室ローテーションⅣ	演習		①				2					0Y321	
		創造工学研究1	演習		②					4				0Y322	
		創造工学研究2	演習		②						4			0Y421	
		創造工学研究3	演習		②							4		0Y422	

区分		授業科目名	授業 形態	単位数 (○印は必修)		毎週授業時間数								ナンバー	備考
						1年次		2年次		3年次		4年次			
				高度	創造	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
	小計	単位	15			13		2					生命・応用化学科(LC)		
		時間	16			14		2							
		単位	16			14		2					理工工学科(PE)		
		時間	17			15		2							
		単位	16			14		2					電気・機械工学科(EM)		
		時間	17			15		2							
		単位	15			13		2					情報工学科(CS)		
		時間	16			14		2							
		単位	15			13		2					社会工学科(AC)		
		時間	16			14		2							
		単位	②5	②	③	①15	③1	③2	④	②	②		創造工学教育課程(CR)		
		時間	40	4	4	17	6	6	8	4	4				
合計 (単位)	生命・応用化学科(LC)		④35	①		②13	①2	14	2						
	理工工学科(PE)		④36	①		②14	①2	14	2						
	電気・機械工学科(EM)		④36	①		②14	①2	14	2						
	情報工学科(CS)		④35	①	②	13	①2	14	2						
	社会工学科(AC)		④35	①	②	13	①2	14	2						
	創造工学教育課程(CR)		②438	③	⑤	①15	④3	③14	④2	②	②				

(注1) 備考欄の略号は、次のとおり学科・課程を示す。

LC:生命・応用化学科, PE:理工工学科, EM:電気・機械工学科, CS:情報工学科, AC:社会工学科, CR:創造工学教育課程,

ACc:社会工学科環境都市分野

(注2) 寄附講義は廃講する場合がある。

(注3) 創造工学教育課程における工学分野方法論各科目の履修制限は、学生の選択する主軸専門分野と一致する分野を有する高度工学教育課程各学科に準ずるものとする。

◎キャリア形成（フレッシュマンセミナー）

第1 新入生が学習と生活を進めるための「フレッシュマンセミナー」

フレッシュマンセミナーは人間社会の中だけでなく、名古屋工業大学における授業と学習の全体、また学生生活や将来の目標を考える上で最も重要なことを学ぶ科目である。大学での学習はそれまでの学習に比べて自由度が高く、自分で自分の学習について目標を定め、自覚的に計画していかなければならない。この授業はそのため知っておくべきことがらを1年前期に学ぶために置かれている。

この科目を通じて以下のことを学んでいただきたい。

- ・ 大学での学習は自分で学ぶものであること。
- ・ 将来の目標や卒業後の社会での役割を考えつつ、学習を進めること。
- ・ 他の学生と協力して学習をすること。
- ・ 図書館やコンピュータ等を有効活用して学習すること。
- ・ 学科・課程での学習上の重要なこと。

第2 1年次の履修について

フレッシュマンセミナーは必修科目である。この科目は15回の授業のうち、11回ですべての学生が共通して学ぶべきことを、また4回で各学科・課程として学ぶべきことを学習する。大学の授業は予習・復習が大事で、課題をしっかりこなしていく必要がある。この授業ではこのことをしっかり身に付けていただくため、課題が出されるので、しっかり取り組み、不合格で再履修となることがないようにしてほしい。

この科目は、以下の項目について学ぶこととなるが、順序は学科・課程によって異なるので注意すること。

1 授業ガイダンス（1回）

フレッシュマンセミナーの授業の目的、目標、この後で学ぶ各セクションの概要を説明し、授業に備えていただきます。

2 大学での学習（2回）

大学での学習は自分で意欲的に学ばなければならない。授業は教員からの講義で進むのではなく、自ら予習し、授業中は一つ一つのことを自分で考えながら聞き、ノートを取り、そして、復習によって理解を確認し、必要に応じて図書館などで知識の補強をしなければならない。この授業ではこれらの学習に関する基本的なことを学び、実際に自分の頭で考える体験をしていただく。

短い動画を視聴し、自分の意見を述べる訓練を行う。意見交換を行うグループワークの形式で授業を進め、コミュニケーションの重要性も同時に学ぶ。

3 アカデミックライティング（1回）

これから学習を進めるにあたって、正しく文章を書くことは重要である。実験や演習ではレポートを書き、また研究室に入ってから実験ノート、ゼミの資料、そして卒業論文を書いてゆくことになる。人に伝えるための文章、自分の意見を述べる文章、事実と自分の意見を正しく分け、論理的に結論を導く必要がある。この授業では正しい文章を書くための基本を学ぶ。

4 学生生活（2回）

これまでの学習に比べて大学での学習は自分で計画的に進めなければならない。授業選択の幅が広く、また、研究や将来計画では一人ひとりが異なる計画で進めることになる。また一人暮らしをする人も多く、課外活動やアルバイトとの両立のためには計画性が求められる。自分を律することができなければ健康も不調となり、計画的な学習ができない状況にも至る。また、大学生は社会にでるための準備期間でもあり、悩みの多い時期でもある。

この授業では大学生活を送る上での心身の健康上の注意や自分の生活を振り返り、よりよい学生生活を送るための学習を行う。また障害者への配慮や消費者としての注意事項についても併せて学ぶ。

この回のうち、1回を保健センターが担当する。保健センター担当の回は必ず冊子「大学生の健康ナビ」（入学時に配布）を持参すること。

5 キャリア（2回）

大学の学習は卒業後の進路や生活と直結している。将来の職業のことを考えずに学習をすることはできない。また、自分の将来像を描くことで1つ1つの授業で学ぶ目的を意識できる。この授業では各自の学科・課程においてその後どのように学び、どのような職業に就くことができるのか、社会に対してどのような貢献をしてゆくのかを考え、将来計画を立てる準備を行う。

6 名工大で学ぶこと（1回）

工学を学ぶこと、名古屋工業大学で学ぶことは、どのような意味があるのかについて考える。工学を学ぶことは単に、工学の専門知識と技術を修得するというのではない。工学を学んだ者は産業界で役割を果たすことが求められる。名古屋工業大学の各学科に入学したということはそうした責任を果たすと社会に対して約束したことを意味する。名古屋工業大学は創立以来、多くの役割を担ってきた。工学を学んだ者が、また、名古屋工業大学を卒業した者がどのような貢献を社会から期待されているのかについて学習する。

7 図書館と情報収集（2回）

大学での学習のもっとも重要なことは自ら学ぶことであるが、そのために必要な文献や情報の収集の方法を図書館が担っている。図書館を自由自在に活用できるかどうか、学習を成功させるための鍵である。この授業では図書館を利用する上で知っておくべきこと、また、図書館を利用して実際に情報収集、分析を行うための技術を学び、課題を通じて図書館活用の基礎知識を修得する。併せて情報社会で知っておくべき情報セキュリティの基礎を学ぶ。

8 各学科・課程で学ぶこと（4回）

各学科・課程のカリキュラムや分野等の内容について学ぶ。

第3 履修についての注意事項と Moodle ページ

複数の項目を異なる担当者が担当するので、毎回の実施場所、変則的な開講、持参すべき資料についてよく確認すること。

フレッシュマンセミナーは Moodle システムを活用して進行する。Moodle システムは、PC のブラウザから閲覧し、授業の資料や課題をそこで学習することのできるシステムである。授業開始までに Moodle の使い方の説明があるので、説明の後にフレッシュマンセミナーのページを確認すること。

フレッシュマンセミナーの Moodle ページは次の2種類ある。

① 2024 年度フレッシュマンセミナー（共通内容）

② フレッシュマンセミナー 202410XXX 前期 ○曜 X-X 限_c22

①はすべての学生が参照するページであり②はクラス毎に参照するページである。授業はこの2つのページに注意する必要がある。両方のページに登録すること。まず、「共通内容」のページに書かれている注意事項をていねいに確認すること。

第4 質問等について

全体

犬塚信博（2号館324A）(inuzuka@nitech.ac.jp)

各学科・課程担当分

各学科・課程の教務学生委員

◎人間社会（「技術と人間・心理」，「技術と歴史・哲学」，「技術と社会・国際」，「技術と芸術・文化」）

第1 共通科目としての『人間社会』

人間社会科目は，人間と人間が営む社会に関連する諸学問分野について，考え方やアプローチの仕方などを学ぶ能力を育てることを目的とする。人文系，社会系，自然系の科目のほか，英語以外の外国語や文化を学ぶ「地域研究」を開講している。それらは「技術と人間・心理」「技術と歴史・哲学」「技術と社会・国際」「技術と芸術・文化」の4科目群に分かれ，1年次前期に4単位分，1年次後期，2年次前期・後期それぞれで2単位分開講される。

卒業には，3科目群以上から計8単位以上の修得が必要である。

第2 1年次の授業科目

○授業名は，シラバス公開システムや授業時間割表で確認できる。

○前期は，原則として対面授業が行われる（例外あり，後述）。

○前期：火曜1・2時限と3・4時限に開講される。1・2時限，3・4時限それぞれについて，シラバスをよく読んで興味のあるものを選択すること。

○後期：木曜5・6時限と7・8時限に開講される。

第3 履修についての注意事項

<抽選について>

○初回授業前に学務課・教務情報システムによる抽選に必ず参加すること。原則，抽選に参加せずに履修登録をした場合，人間社会科目の履修が認められない。

○抽選日および抽選結果発表日については，学務課・教務情報システムの連絡を確認すること。(抽選予定日：4月10日(水)9:00から12日(金)13:00まで，結果発表予定日：4月15日(月)13:00以降)

○抽選に参加すると同時に，Moodle「人間社会総合」を初回授業前に「コース登録」し，各自適宜確認すること。人間社会科目の重要な連絡事項は，学生掲示板やMoodle「人間社会総合」で通知されることがある。

○前期・後期とも，初回授業前の抽選は適正な授業運営・評価のため行われる。

○抽選判明結果判明後の対応

(1) 当選した学生 ... ①当選した科目をMoodleで「コース登録」(※)の上，
②各授業の担当教員からの連絡を確認し，③初回授業を受講する。

※同じ科目名が複数存在するため，必ず時間割番号を確認の上登録する。

(2) 抽選に漏れた学生，抽選に参加できなかった学生 ... 受入可能科目は学

生掲示板に掲示される。ここから選択して、初回授業までに①学務課への履修登録、②Moodle「コース登録」を行い、③初回授業を受講する。先着順となり、各授業担当教員への問い合わせは不要。

○後期科目の抽選：後期開始前に学生掲示板等で案内がある。

<履修全般について>

○上述の通り、4科目群のうち少なくとも3科目群、計8単位以上の修得が必要である。

○「地域研究」は括弧書きが異なっても重複して履修できない。例えば、1・2限で「地域研究（ドイツ）」、3・4限で「地域研究（中国）」は不可能。

○人間社会科目では、再受講免除はない。

第4 初回授業について

- 1 前期は、原則として対面授業であるが、初回の授業は Moodle でのオンデマンド授業となる科目もあるため、シラバスを必ず確認すること。
- 2 Moodle 上の各授業担当教員からの連絡を確認の上、初回授業を受講する。

第5 教科書について

【共通の教科書】

藤本温・上原直人編『工科系学生のための〈リベラルアーツ〉』知泉書館, 2023。

以下の科目では、共通の教科書を使用する。

環境学（小田）、人間行動学（小田）、科学技術史（山中）、科学と哲学（瀬口）、共生社会論（川崎）、経済学（川崎）、公共の哲学（藤本）、宗教文化論（犬塚）、生涯学習論（上原）、〔2年次開講科目：心理学（田中）〕

授業開始までに購入しておくこと。大学生協で入手可能。

科目によっては、共通の教科書以外にも教科書を指定する場合がある。各科目のシラバスをよく確認すること。

第6 質問等について

抽選について：学務課（学生センター①番窓口）

各講義について：担当教員（連絡先はシラバスや Moodle を参照）

それ以外：山中千尋（53号館 516A室）(yamanaka.chihiro@nitech.ac.jp)

◎『数学』（自然科学基礎）

第1 共通科目（自然科学基礎）としての『数学』

数学は工学（および工学の基礎としての理学）の基礎であるので、しっかり勉強し、確実に単位を取得してほしい。まずは履修登録を間違えずに行うこと。時間割を見て、登録するクラスが正しいかをよく確認すること。履修登録を間違えると単位が認定されない場合がある。

第2 1年次の授業科目

本学では1年次に共通科目（自然科学基礎）の一部として、次の数学の科目を学ぶ。線形代数はすべて必修科目である。

- 「微分積分Ⅰ及び演習」（前期）
- 「微分積分Ⅱ及び演習」（後期）
- 「線形代数Ⅰ」（前期）※CSを除く。
- 「線形代数Ⅰ及び演習」（前期）※CSのみ。
- 「線形代数Ⅱ」（後期）

第3 1年次（正規）の履修について

1 履修するクラスについて

指定されたクラスで履修すること。ただし、社会工学科の学生は、次の数
学独自のクラス分けに従うこと。

- nクラス 建築・デザイン分野の一部
 - oクラス 環境都市分野全部
 - pクラス 建築・デザイン分野の一部と経営システム分野全部
- 建築・デザイン分野学生のn, pクラスへの分け方については別途指示する。

2 「微分積分Ⅰ,Ⅱ及び演習」について

「微分積分Ⅰ及び演習」（前期）,「微分積分Ⅱ及び演習」（後期）は週2コマで、講義の進行状況に応じて演習を交えて、合せて各学期23回以上行う。8回分は各自が演習の課題に取り組む時間である。週によって2コマとも授業が行われることも、1コマだけのこともある。演習はクラスを分割して行う。時間割の片方のコマに講義室が2つ記載されているが、それは演習を行うためである。いっどこで授業が行われるかについては担当教員の指示に従うこと。なお、演習は実験と同様出席も重視される。出席が少ない場合には、定期試験の結果によらず不可になることがある。

3 情報工学科の「線形代数Ⅰ及び演習」について

「線形代数Ⅰ及び演習」（前期）は週2コマで、23回以上行う。週によって2コマとも授業が行われることも、1コマだけのこともある。いつ授業が行われるかについては担当教員の指示に従うこと。

第4 履修についての注意事項

1年次にこれらの単位が取得できなかった場合には、2年次以降に1年次の学生とともに履修することになる（再履修）。再履修については下記第7の注意事項を順守すること。再履修に際しての注意事項は改めて配布されることはないので、この冊子を失わないように注意すること。

第5 初回授業について

微分積分で初回の教室が2つ指定されている場合、それらは隣接しているので、どちらか一方の教室に行き担当教員の指示に従うこと。

第6 質問等について

授業に関する質問は、それぞれの担当教員に相談すること。非常勤講師（時間割表では下線で表示）が担当する授業では、教科の内容については同一クラスの数学科目を担当する専任教員（例えば、微分積分の担当が非常勤講師である場合は、線形代数を担当する専任教員）に相談してもよい。

第7 その他（再履修について）

1 再受講免除は行わない。

すなわち、実際に授業を受けなければならない。

2 所属する学科・課程のクラスで再履修する。

例えば、生命・応用化学科の学生は生命・応用化学科の各クラスでのみ再履修が可能で、物理工学科など他学科・課程のクラスでは再履修できない。社会工学科においては、建築・デザイン分野の学生はnまたはpクラスでのみ、環境都市分野の学生はoクラスでのみ、経営システム分野の学生はpクラスでのみ再履修が認められる。創造工学教育課程の学生は所属するコースでのみ再履修できる。

3 初回の授業の際に必ず担当教員に申し出て承認を得ること。

原則として元のクラスで受講すること。例えば、1年次にaクラスであった者は再履修もaクラスで行なうこと。ただし、社会工学科を除く各学科では、担当教員が認めれば自学科の他のクラスでも再履修できる。担当教員の承認を得ずに履修登録をした場合には、受講が認められないことがある。

◎『物理学』（自然科学基礎）

第1 共通科目としての『物理学』

本学では、物理学として力学と電磁気学、それぞれの演習として物理学演習Ⅰ、Ⅱが共通科目として1年次に開講される。力学と電磁気学は19世紀末までには完成していた物理学の領域である。力学と電磁気学を身につけることで、高い専門性をもつ20世紀以降の科学分野を理解する能力が身につく。

大学では、少しの定義や法則をもとに物理現象を理解し、高度な数学を用いて系統的に解説する。高校では、物理の学び方として現象や条件ごとに式を覚えて、演習を繰り返すことが多い。高校までの覚える学び方にとらわれすぎるとついていけなくなるかもしれない。大学のやり方で力学や電磁気学を学びなおすと思って、新たな気持で主体的な意識を持って受講しよう。

1 物理学をなぜ学ぶのか

力学はなぜ必修科目なのだろうか。将来、仕事で力学を使うのだろうか。仕事に使う道具が必要な場合は、例えば専門学校があるように、道具に特化した学び方をする方が手取り早い。資格を得たければ、資格試験に受かるように学ぶ必要があるだろう。

大学での学びは道具や資格を得ることが第一の目的ではない。理解する、思考する、発信するといった能力を全体に高めて、さまざまなことに対応できるようにする、自らの好奇心に応じて未知の物事を深く探究する、そういう学びの場が大学である。

力学は物体の運動を理解し記述する学問分野であるとともに、物理学のしくみを理解するためにも学ぶ価値がある。人類は歴史的に力学を最初に理解して使いこなした。物理学を学ぶに際し、力学から始めるのがよさそうである。

力学は、長さ、時間、質量のたった3種類の量から構成される。これにより位置、速度、加速度、仕事とエネルギー、重心や慣性モーメント、力のモーメント（トルク）などが定義に従って記述できる。力学を説明するニュートンの運動法則は第一から第三までのわずか3つである。エネルギー、運動量や角運動量の保存則は、運動法則から導かれる。保存力とポテンシャル（位置）エネルギーの関係など物理学の基本をなす重要なことも多く登場する。力学は物理学を学ぶ上で入門の役割をもっている。

ニュートンの運動法則により、ボール投げも、バネの振動も、ヨーヨーの運動も、人工衛星の軌道も、惑星の運動も記述できる。未来を知りたくて、占星術に熱中した人類は、天体観測から科学である力学を手にいれた。わずかな定義と法則で、どのような運動も説明でき、未来が予想できるのはすばらしいことである。キャッチボールができるのも、探査機が小惑星に到着

するのも未来予想できるからである。物体の速度が光速よりも十分に遅いときにはという条件が力学にはつくが、このことは相対論への好奇心を与えるだろう。運動以外にも、力の理解は土木工学や建築工学にもつながっていくだろう。

人類が力学の次に手にした物理学が電磁気学だ。電磁気学は長さ、時間、質量に電流が加わり、4つの量により構成される。これらにより電場や磁場が表現されるが、身体で感じるができないこともあり理解が難しくなる。論理的思考力がさらに必要となる。

電磁気学を説明するのは、マクスウェル方程式とよばれる4つの法則である。法則を理解して使えるようになることが目標となる。力学は法則を学んでから現象を理解していくのに対し、電磁気学では現象を理解しながら法則を学んでいく事が多い。これはさらに高度な数学を必要とするため、数学でわからなくなることを避けるためである。

電磁波はマクスウェル方程式から導出される。電磁気学により人類は光が電磁波であることに気づいたし、情報と通信にあふれる社会を作り出した。電気回路も磁気記録も電磁気学の産物である。回路が面白いと思えば、電気回路やさらに電子回路と学んでいけばよい。磁石に興味があれば量子力学を学ぶ動機となる。クーロン力は化学結合の理解を助けるだろう。

電磁気学を学んで、次は熱力学を学びたいところであるが、こちらは共通科目ではなく、学科・課程によっては専門科目として学ぶ。熱力学では新たに温度と物質質量（モル）が登場する。原子や分子の運動といった微視的な理解が必要となりさらに難しくなるが、物質工学の理解へとつながる。ここまで学んでやっと20世紀初頭の物理常識を身に着けたことになる。

物理学実験では物理現象を体験する。実験は自らの力で最後までやり遂げなくてはならない。実験目的と測定原理を理解し、実験を行い、記録し、解析し、報告することを通して、物理現象への理解を深める。実験に失敗することと、それを解決することは課題解決の練習になる。報告書の書き方を学ぶのは論理的文章を書く練習でもある。報告しなければその実験は行われなかったのと同じことである。みなさんの多くは論理的な文章を書く能力が十分でない。正確に伝わる、論理的で簡潔な報告書を書けるようになることを意識しなくてはならない。

力学や電磁気学に取り組み、実験をうまく進めていくためには、論理的に考える能力が求められる。論理的に考える能力は、論理的な文章を書くことで鍛えられる。報告を書くことは、次の課題を明らかとすることでもある。大学で学ぶ物理学はあなたを「数学と理科が得意な人」から「物事を論理的に考え未知の問題を解決できる人」つまりは、本物の理系へと成長させてくれるだろう。

2 物理や工学の言葉は数学

物理や工学の言葉は数学である。数学を道具として味方につける必要がある。ベクトル解析，微分積分，微分方程式，線形代数などを使うことを嫌がってはいは，物理学を学ぶことができなくなる。高校までに学んだ数学をもとに，力学や電磁気学と並行して，大学で学ぶ数学を使えるようになる必要がある。物理学や専門基礎の講義において必要な数学を道具として学ぶこともある。物理を表現するにはベクトルが必要であるし，問題の多くは微分方程式を現実の条件のもとで解くものである。頻繁に微分と積分（線積分と面積分を含めて）を実行することになる。

3 演習は自分で取り組むもの

担当する先生にもよるが，講義時間には演習を行わない場合が多い。演習は物理学演習ⅠやⅡで行われる。講義と演習の授業は並行して進むので，だいたい進度は一致している。課題や章末問題，問題集で自学するなど，演習は自分がやらない限り進まない。自らの学びを始めよう。

第2 1年次の授業科目

前期「力学」，「物理学演習Ⅰ」

後期「電磁気学」，「物理学演習Ⅱ」，「物理学実験」

を学ぶ。物理学実験は2年次前期に開講する学科や課程もある。

第3 1年次の履修について

力学や電磁気学は，最初のうちは高校までに学んだことと同じだ，と思って油断してしまうかもしれない。ところが，4週目くらいから急に難しく感じられてついていけなくなったりする。高度な考え方や微分方程式，線積分や面積分などが使われ始めるからだ。学ぶ姿勢を保つことを意識して欲しい。入学からわずか半年後には，入学試験よりも難しい問題について期末試験で解くこととなる。そう考えると，自ら進んで学んだ方がよいと思えてくると思う。

講義や演習を全く理解できていないのに，そのまま半年過ごしてしまう例を見かける。授業を担当している先生に早めに相談して，学習を軌道に載せよう。

大学では，期末試験などで可が認定される得点（通常は60点）が取れなければ，単位が認定されず，翌年以降に再履修してやり直し，ということになる。

1年次に単位を取れないと，2年次以降の学習計画を乱してしまう。時間割において同一時間に2年次以降の講義があれば，どちらか受講できないことになる。必修科目を落としている場合には，卒業認定を満たさないし，卒業研究に着手できない場合が生じるかもしれない。単位が取れなくてもなんとかできるだろうと思わない方がよい。1年次の授業を2年次以降に再履修することは簡単

ではない。

第4 履修についての注意事項

履修する上で大事なことは、予習や復習をすることである。まずは復習を大切にしたい。どんなことを学んだのか、ノートを見直して頭の中を整理しておこう。物理学は学ぶことが積み上がっていくから、途中でわからなくなると、その後が全くわからない、といったことが生じやすい。復習を大切にすれば、講義について行けないことが起こりにくいだろうし、質問があれば、オフィスアワー（第6参照）と呼ばれる質問時間などを利用して解決する。難しくなればなるほど、予習も取り入れるとよい。あらかじめ教科書を読むだけでも、講義を受けてからの理解が全然違うはずである。

試験などにおいて不正行為を行った場合には、試験の無効や停学などの処罰を受ける。4年では卒業できなくなり、また、自分のためにならない愚かな行為といえる。普通に組みあえば、合格できる。しっかり学ぼう。

第5 初回授業について

時間割をよく見て、クラス分けに注意して、講義室を間違えなければ、初回授業にたどり着けるだろう。クラス分けはガイダンスや掲示などで案内が行われるから注意しよう。物理学の科目は、自学科・課程の先生が担当する場合もあるし、違う場合もある。教科書の準備はシラバスや購入案内でわかる。教科書が高価で驚くかもしれない。しっかりと使おう。受講に際しての注意事項もシラバスに示されている。

第6 質問等について

質問は、授業後の休み時間に先生をつかまえばよいし、オフィスアワー（シラバス参照）を利用しよう。「先輩のいる学習室」を利用することもよい。

履修や受講に関する事務的な疑問はガイダンスなどで解決しておこう。よく聞いていなかった、うっかりして手続きの期限を過ぎてしまったなど、ないよう気をつけよう。

困ったときは学生センター窓口や各学科・課程の教務学生委員の先生たちへ相談しよう。何事も早めに解決することをお勧めする。

◎『化学』（自然科学基礎）

第1 共通科目としての『化学』

1年次の科目としては、前期に「化学結合論」、前期又は後期に「基礎化学」が開講される。「化学結合論」は化学結合について学んでいく科目であるが、高校化学の電子殻を中心とした説明とはかなり違う「原子・分子軌道」という概念を中心にして学んでいく。（高校化学の教科書では発展学習のところで取り扱っているものが多いので、そこを読んでおくが良い。）高校の物理の「原子と原子核」において量子化という概念を学び、電子殻についての説明は習っているはずである。この内容を更に深めたものが「原子・分子軌道」になるので、高校の物理の教科書は役に立つと思われる。また、化学結合についても高校とは違い、定量的に扱う（すなわち、数式を利用して考えていく）ことになるので、数学的な要素も大きく入ってくる。特に、生命・応用化学科で物理を履修していないものは、高校の物理の内容について何らかの手段で学んでおいて欲しい。「基礎化学」は物理化学と呼ばれる分野で、高校の化学（4単位科目）の熱化学、化学平衡、反応速度を中心として、さらに深く学んでいく科目である。この中で、熱化学の分野は化学よりも高校の物理（4単位科目）に近い内容になる。この科目を履修するに当たって、物理の内容の理解も必要となるため、高校の物理の教科書はとっておくと良い。

高校の化学と大学の化学は雰囲気はかなり異なっていて、まるで物理の授業ではないかという印象を持つかもしれない。化学という科目は、物理の知識の上に成り立っている科目だと言うことは、忘れないようにして欲しい。

大学の化学は、手法として微分積分をかなり使っていくことになる。数学の微分積分の授業は、化学の授業のベースにもなるので、その点に十分注意して履修すること。

第2 1年次の授業科目

「化学結合論」と「基礎化学」は全ての学科・課程で開講されるが、生命・応用化学科と、それ以外では位置づけが異なる。

生命・応用化学科は、専門でも化学の知識を使っていく学科であるので、この2科目は2年次以降の科目の基礎となる。2年次以降の専門教育科目の履修条件の中に、この2科目を履修していること、と言う条件がついていることがある。そのため、他の学科・課程の同一名の科目に比べると、範囲は狭くなっているが、内容はかなり深くなる。

それ以外の各学科は化学系ではないので、専門教育科目の履修条件に入って

いることはあまりない。技術者として最低限持っている必要のある基本的な化学に関する事項を中心に学んでいく。ただし、その学科・課程の特性に合わせた授業が開講されるので、必ず自分の学科・課程で開講されているものを受講すること。

第3 1年次の履修について

「化学結合論」「基礎化学」の単位を落とした場合、生命・応用化学科の学生は必ず自分の学科の開講科目を再履修する必要がある。

それ以外の学科・課程の学生に関しては、必ずしも自分の学科・課程でなくても再履修は可能であるが、必ず生命・応用化学科以外の授業を選ぶこと(時間割上で可能であれば自分の学科・課程の科目を再履修することが望ましい)。

それぞれの科目において、名前順でのクラス分けを行う学科がある。クラス分けの結果は、原則19号館1階の「ゆめ空間」に掲示するので、必ず確認すること。

第4 履修についての注意事項

化学の学習に関しては、予習よりも復習を重視すること。ただし、高校で化学、物理を履修していない学生は、あらかじめ高校の教科書やNHK高校講座オンデマンドを見て、必要と思われる化学、物理の内容を予習しておくこと。

先に高校物理の「原子と原子核」のところを読んでおくと、「化学」の授業が理解しやすくなる。また、復習において、数学の微分積分の確認が大切になるので、微分積分の教科書も有効に利用すること。

第5 初回授業について

クラス分けについては、第3に書いたとおりであるので、掲示には十分に注意すること。

初回の授業では必ず教科書を持参すること。最初の授業で、全体的な流れについて説明があるので、教科書の目次くらいは目をとおしておくこと。

第6 質問等について

シラバスに掲載されているので、シラバスで確認すること。また、指定されている時間帯以外でも質問は受け付けるので、メールで担当教員に連絡して、日時を指定してもらうこと。

◎『英語』（グローバルコミュニケーション）

第1 共通科目としての『英語』

共通科目(グローバルコミュニケーション)の英語科目には以下のものがある。

	前 期	必修 /選択	単位	後 期	必修 /選択	単位
1 年次	「English Seminar I」(演習)	必修	1	「English Seminar II」(演習)	必修	1
	「Academic English I」(講義)	必修	2	「Academic English II」(講義)	必修	2
2 年次	「Academic English III」(講義)	必修	2	「Academic English IV」(講義)	選択	2
3 年次	「Global English I」(演習)	選択	1	「Global English II」(演習)	選択	1
4 年次	「Global English III」(演習)	選択	1	「Global English IV」(演習)	選択	1

講義と演習を組み合わせ、専門領域での研究や仕事において必要とされる英語の基礎的能力を育成できるように構成してある。

第2 1年次の履修について

- 1 「English Seminar I/II」(演習)と「Academic English I/II」(講義)を週に1回ずつ受講し、大学生として必要な基本的な英語能力を身につける。
- 2 前期科目「English Seminar I」と「Academic English I」はそれぞれ別の教員が担当する。後期科目「English Seminar II」と「Academic English II」は、原則として前期と同じクラス編成で行う。
- 3 各科目の課題内容や評価の方法・基準の詳細については、シラバスをよく読んで確認すること。

第3 履修についての注意事項

- 1 英語科目は4月8日(月)から授業が開始されます。
- 2 受講クラスは、4月8日(月)午前10時までに、19号館1階の「ゆめ空間」外側(正門側出入り口付近)及び52号館1階「ゆめルーム」入り口付近に掲示します。「English Seminar I」「Academic English I」ともに、指定されたクラスを指定された教室で受講してください。
- 3 初回講義には教科書は不要です。必要な場合は担当教員が準備します。
- 4 クラスは基本的に学科・課程別で編成していますが、能力及び意欲に応じて上級クラスを開講します。
- 5 授業計画やクラスのルール、評価の方法や基準については、それぞれの担当教員が授業内に説明します。授業で受けた指示はいつでも確認できるように控えておくといでしょう。

- 6 1年次の英語科目はいずれも必修科目です。単位が取得できなかった場合は、2年次以降、再度授業を受ける必要があります(英語科目については「再受講免除」制度は適用されません)。
- 7 英語学習は毎日の努力の積み重ねが大切です。教員の指示による予習・復習に加えて、自主的な授業外学習を行いましょう。
- 8 授業以外で英語の力をつけたい人は、名工大にある **e-learning** 教材(「英語鍛錬道場」等)や英語読本を利用してください。「英語鍛錬道場」は、参加申込日が決まっているので、注意すること。英語読本は、図書館および53号館4階コミュニケーションルームに置いてあります。

第4 質問等について

担当教員の連絡先は、シラバスに記載されています。メールや Moodle のチャット等もありますが、原則シラバスのオフィスアワー欄に記載されたアドレスまたは方法で連絡してください。初回講義で担当教員から再度確認されると思いますが、その方法でも担当教員と連絡が取れないときには、英語教務係の教員(永井正司 nagai@nitech.ac.jp またはカレン・ブライアン cullen.brian@nitech.ac.jp)に連絡をしてください。また、非常勤講師については、53号館104A室の非常勤講師控室でも受け付けます。

第5 英語授業のページ

学生ポータルの「英語授業のページ」で、授業に関する重要なお知らせのほか、e-Learning 教材など英語関連の勉強方法や教材に関する情報を掲載するので、掲示板と併せて確認すること。

◎『健康運動科学』

第1 共通科目としての『健康運動科学』

卒業認定に必要な共通科目(健康運動科学)として、1年次前期の体育実技「体育実技Ⅰ」1単位が**必修**である。4年次の卒業研究着手条件は各学科によって異なるため各自で確認しておくこと。

第2 1年次の授業科目

1年次前期の体育実技「体育実技Ⅰ」1単位が**必修である**。選択科目として「体育実技Ⅱ」(1年次後期, 1単位), 「健康運動科学演習A」(ゴルフ, 8月上旬開講の集中講義, 1単位), 「健康運動科学演習B」(スノースポーツ, 3月初旬開講の集中講義, 1単位)を履修することができる。

第3 1年次の履修について

1年次前期「体育実技Ⅰ」と後期「体育実技Ⅱ」の体育実技それぞれ1単位, 計2単位である。健康運動科学演習A, 健康運動科学演習Bは, 原則的に1年次の履修を対象としているが, 2, 3年次にも履修することができる。なお, 体育実技の成績に関する注意事項として,

- (1) 原則的に10回以上の出席(授業は15回)をもって単位修得の資格を得ることができる
- (2) 遅刻及び早退は, 原則的に3回で1回の欠席とみなす
- (3) 成績は実技参加点(60点満点), 技能点(20点満点, 技術・技能の到達度), その他(20点満点, 知識や理論の理解度, 提出物や授業時の態度, マナーなど)から総合的に評価する。

第4 履修についての注意事項

- 1 担当教員によって履修する授業時間割番号が異なるので, 各自で責任を持って履修登録する。間違えて他コースに登録した場合は, 登録名簿に記載されないため成績が出ない可能性がある。
- 2 体育実技における学生の種目選択は原則として自由(体育実技Ⅱで体育実技Ⅰと同じ種目を繰り返し選択することも可)であるが, 種目によって人数の上限を超えた場合, 抽選若しくはその他の方法により決定する。
- 3 体育実技では服装を指定しないが, 運動を行うのに適した服装と靴(テニスはテニスシューズが望ましい)を着用すること。また, 季節や天候に応じて帽子やタオルなどを用意することが望ましい。
- 4 体育館内の種目では必ず体育館シューズを着用する。体育館シューズは, 屋

外で使用する靴と区別できるように赤色の靴ひもを着用する。

- 5 課外活動その他で体育館内の施設やトレーニングルームを使用する際にも必ず体育館シューズを着用すること。着用しない場合は体育館及びトレーニングルームの使用は認めない。
- 6 授業当日の連絡事項は、体育館入口のホワイトボード，又は学生ポータル掲示板に掲示されるので毎回確認する。
- 7 貴重品以外のカバン，衣類等は更衣室ロッカーに置き，体育館内に持ち込まない（課外活動のトレーニングルーム使用時も同様）。
- 8 体育実技授業中の貴重品の管理は，原則的には学生が各自で行う（体育館ロビーに貴重品ボックスあり）。
- 9 更衣室（更衣用ロッカー）について：女子は体育館内の女子専用更衣室，男子は屋外の種目については体育館外の更衣室を，体育館の種目については体育館内又は体育館外の更衣室を利用する。
- 10 外履きの靴は体育館入口付近の土足厳禁の場所では必ず脱ぎ，靴箱に入れ体育館内には持ち込まない。
- 11 天候不良の場合には屋外の種目を体育館内で行う可能性があるので，屋外の種目の学生も体育館シューズを用意しておくことが望ましい。
- 12 備品や運動用具の取扱いは正しく丁寧に行い，使用後に必ず数量を確認する。
- 13 遅刻をした場合や早退する場合は担当教員に必ず申し出る。
- 14 体調不良の場合は，授業開始時に必ず申し出ること。体調不良，その他の理由で実技を行うことができない場合は，原則的に見学による参加も認める。
- 15 授業中に怪我をした場合は，怪我の程度に関係なく必ず担当教員に申し出る。
- 16 千種グラウンドで行う種目については，図書館前から発着するバス（定員55名）で移動する。バスの発着時間は，通常の授業時間とは異なるので注意すること。
3・4時限 大学 10:30 →10:50 グラウンド グラウンド 12:10→12:30 大学
5・6時限 大学 12:40 →13:00 グラウンド グラウンド 14:10→14:30 大学
- 17 大学があっせんしている学生教育研究災害保険には必ず加入すること。
- 18 AED（Automated External Defibrillator;「自動体外式除細動器」）が正門守衛室，体育館，千種グラウンドに設置されていることを記憶しておくこと。

第5 初回授業について

体育館にてガイダンスと実技コースの振り分けを行う。遅刻又は欠席すると希望コースを選択できないので必ず出席すること。

第6 質問等について

健康運動科学の授業は、本学教員と外部からの非常勤講師が担当する。本学の教員は、53号館1階又は2階に在室しているが、非常勤講師の教員は、担当する日のみ体育館事務室に在室する。基本的には、学生は、振り分けられた実技コースの教員の指示を受けるが、非常勤講師が担当する実技コースを選択した学生は、緊急の場合、各コマを取りまとめる本学教員である世話教員と連絡を取ることができる。なお、実技当日の緊急連絡（雨天などの場合）は、体育館入口のホワイトボードで確認すること。

◎『数理情報』（工学コア教育科目）

第1 共通科目としての『数理情報』

様々な分野の科学研究や技術開発において、研究開発対象に関するデータを計測し、分析するデータ駆動型アプローチが有望視されている。実際、社会を変革しつつある人工知能システムの多くはデータ駆動型であり、様々な技術革新の源となっている。大量かつ複雑なデータを分析するには、データ科学や機械学習などの知識が必要となるため、あらゆる分野の研究者・技術者がデータ科学や機械学習を正しく理解し、活用できるようになることが望まれている。

第2 1年次又は2年次の授業科目

数理情報概論

第3 履修について

「数理情報概論」では、データ科学や機械学習を学ぶための前提となる数理情報技術のうち、基本的かつ重要なものに焦点を絞って学習する。特に、不確実性を伴うデータを扱うための統計学、大規模なデータを扱うための数値線形代数、データに潜む知識を抽出するための最適化の基本的な考え方を学び、これらがデータ科学や機械学習においてどのように活用されるのかを理解する。本講義の目的は、基盤となる数理情報技術を理解することで、それぞれの専門分野でデータ駆動型アプローチを活用できる人材を育成することである。上記目的を心に留めて、特に毎回の講義後の復習を怠らないこと。

第4 履修についての注意事項

担当教員の指示による

第5 初回授業について

授業時間割表に記載の部屋に時間どおりに集まること。変更は掲示するので、適宜掲示の有無を確認すること。

第6 質問等について

全体：本谷秀堅 (hontani@nitech.ac.jp)

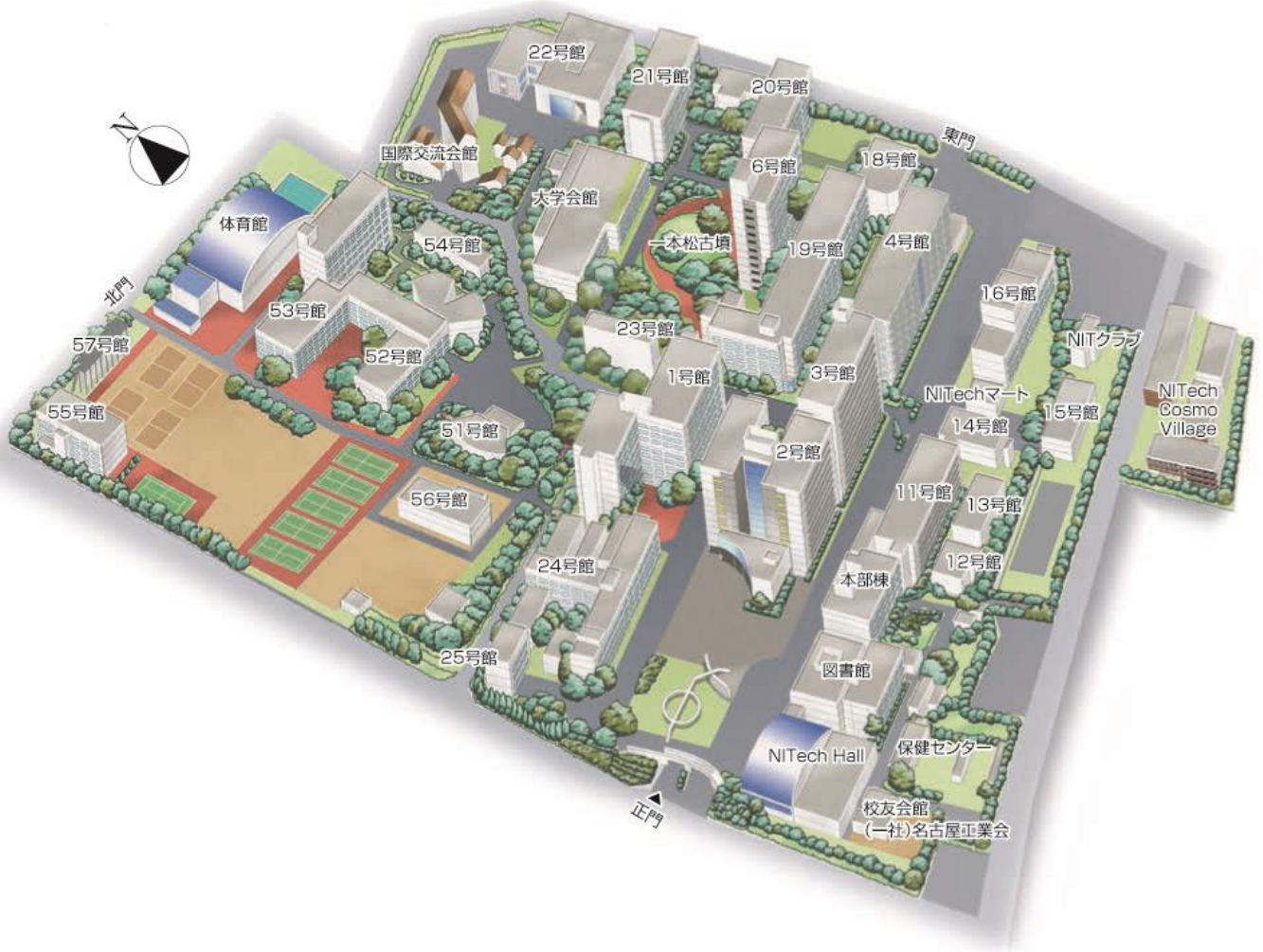
各講義：担当教員と TA にメールで連絡。

第7 その他（再履修について）

- 1 再受講免除は行わない。
- 2 所属する学科・課程のクラスで再履修する。

ただし、創造工学教育課程の学生は、やむを得ない理由で自課程のクラスで受講できない場合は、教務学生委員の先生に確認のうえ、主軸分野と同一の高度工学教育課程開講のクラスで受講が認められることがある。

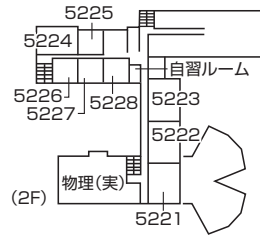
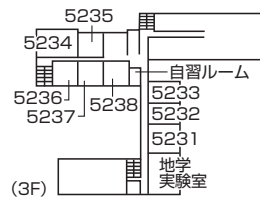
学内配置図



講義室配置図

2024年4月1日現在

52号館・53号館

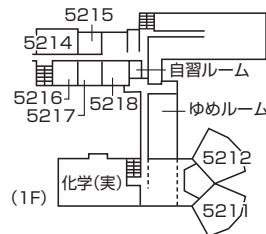
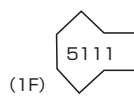


自習に使用できる場所

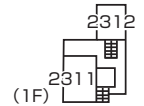
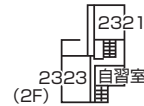
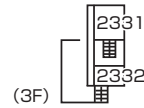
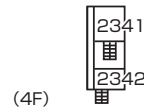
- ・自習ルーム (52・53号館 1・2・3 階)
- ・自習室 (23号館 2 階)
- ・19号館ゆめ空間 2 階

※節電のため、空き講義室ではなく、これらの場所を利用してください。

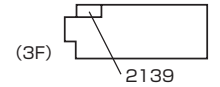
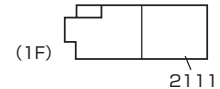
51号館



23号館



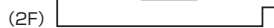
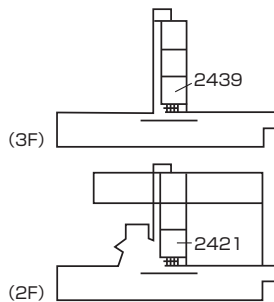
21号館



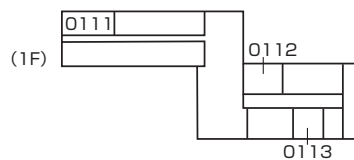
20号館



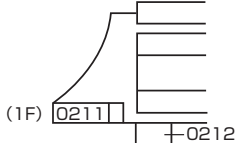
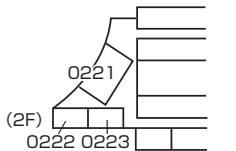
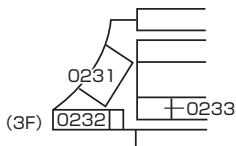
24号館



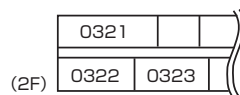
1号館



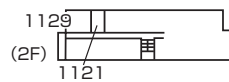
2号館



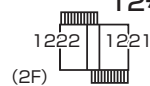
3号館



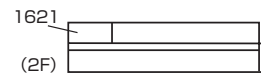
11号館



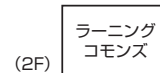
12号館



16号館



NITech Hall



1.1. 教育用計算機システム（Edsys）について

本学発行の IC カード（学生証または職員証）を持つ学生および教職員は、以下の場所に設置されている約 530 台の教育用計算機システムの端末（教育用端末）を利用する事が出来ます。

➔教育用端末の設置場所と設置台数

建物名称	階	設置場所名称	教育用端末	プリンター	利用時間
20 号館	1 階	PC ラボ	20	1	授業実施期間（平日） 08：00～21：30※4 ●入室に要 IC カード
	2 階	2029 講義室※5	205	-	授業実施期間（平日） 08：00～17：00※1 ※2 ※3
11 号館	2 階	1129 講義室	66	-	授業実施期間（平日） 08：00～21：30※1 ※2 ●入室に要 IC カード
21 号館	3 階	2139 講義室	66	-	
24 号館	3 階	2439 講義室	61	-	
19 号館	2 階	ゆめ空間	10	1	
		Global Network Room	20	-	
NITech Hall	2 階	LI:NCs PC エリア	11	1	LI:NCs 開館時間（図書館 ホームページ参照）
図書館	1 階	情報検索コーナー	8	-	図書館開館時間（図書館 ホームページ参照）
	2 階	メディア室	41	-	
		パソコンコーナー	12	1※6	
		PC／AV コーナー	13		
備 考	※1夏季／冬季等の長期学期休業期間中の自由利用はできません。 ※2講義中は、受講者以外は利用できません。 ※3第二部・基幹工学教育課程の講義のため、利用時間が延長される場合があります。 その際の自由利用はできません。 ※4長期学期休業期間中は平日の 09：00～17：00 に短縮されます。 ※52029 講義室は、間仕切りで最大 3 部屋に分割可能です。分割利用される場合は事前に学務課（19 号館 1 階学生センター）で間仕切り用ハンドルをお借りください。 ※6図書館 2 階パソコンコーナーのネットワークプリンターは「コピー機能」が使用できません。				

最終更新 2022 年 4 月時点



1.2. 教育用端末利用における注意事項

教育用端末を利用するためには本学発行の IC カード（学生証または職員証）が必要です。
教育用端末利用中は常に IC カードを IC カードリーダーの上に置いておく必要があります。

- 教育用端末設置場所への飲食物の持ち込みは厳禁です。
やむなく持ち込む場合は、かばんに入れてその口を閉じてください。レジ袋の場合も同様です。
- ゆめ空間/PC ラボ/図書館/NITech Hall に設置してある教育用端末で USB フラッシュメモリ等を利用する場合は、延長ケーブルにつなげた外付けの USB ポートを利用してください。ガムテープで塞いである本体側の USB ポートは絶対に使わないでください。
- 違反者には教育用端末利用アカウント停止などのペナルティがあります。

教育用端末の電源はスリープ運用で集中管理を行っています。本体および、ディスプレイの電源を切らないようお願いします。

大学からのお知らせ・案内の見方

～これだけは覚えて！～

1 お知らせはすべて「電子掲示板」です。自分で情報を確認してください！

- ・授業・学生生活・各種手続きに関することなど、あらゆる情報・連絡はすべて電子掲示板に掲載されます。掲示には注意し、機会を逃さないようにしてください。掲示の確認ミスは自己責任です。
- ・卒業や授業料に関わることでも、原則として保護者の方への連絡は行いません。
- ・学生有志が開発したスマートフォン用アプリも有効に活用してください。

Android 用



iPhone・iPad 用



2 紙の掲示は 19 号館「ゆめ空間」で！

- ・原則、「ゆめ空間」に掲載されている情報は、全て電子掲示板でも案内しています。
- ・各種ポスター、パンフレットなど紙の掲示のみのものもあります。

3 学生メール（○○@stn.nitech.ac.jp）を確認しましょう！

- ・特定の学生向けの連絡などは、大学から学生メール宛てに届きます。
- ・「学生ポータル」と学生メールの使い方は、初回の「フレッシュマンセミナー」「情報技術」の授業で説明します。
- ・災害などの緊急時には、学生に対しても安否確認メールなどが届きます。生命に関わる重要なことです
ので、必ず利用できるようにしておいてください。

4 統一データベースに連絡先・住所を登録してください

- ・統一データベースに電話番号、住所など自分に関する情報は必ず入力し、変更があった場合にはその都度修正し（詳細は入学後に説明）、緊急時に電話、メールで確実に連絡がとれるようにしてください。
- ・大学からの電話には必ず対応してください。大学の電話番号は「052-735-****」です（末尾 4 桁は部署により異なります）。
- ・大学からの電話は多くは緊急の場合です。出られなかった場合も、かけ返すなど対応をお願いします。

5 学科・専攻の掲示板もあります

- ・試験結果や研究室に関することなど、特定の学科向けの内容は学科ごとの掲示板にも掲示されます。
- ・授業やガイダンスで教員から指示がありますので、指示に従って確認してください。

6 「学生生活案内」は卒業まで必要です

- ・入学時に配布される「学生生活案内」冊子は、カリキュラムや必要単位のことだけではなく、各種手続きの仕方や注意事項など入学から卒業まで、学生生活における重要な内容が記載されていますので、熟読してください。
- ・必要な時に参照できるように、保管してください。学生ポータルの「リンク集＞教育・生活支援情報」から WEB 上で参照することもできます。

7 わからないことは聞きましょう。

- ・修学上、学生生活等で、困ったこと、わからないことがあれば、19 号館 1 階の学生センターまで来てください。

発行 名 古 屋 工 業 大 学
編集 名 古 屋 工 業 大 学 学 務 課

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
<http://www.nitech.ac.jp>
